

NEWS

多世代交流拠点施設について考える / 富まちミーティング【多世代交流拠点施設編③】を開催します！

和泉市では、令和2年3月に策定した「和泉市富秋中学校区等まちづくり構想」に基づき、人権文化センターや青少年センターなどを集約し、現・和泉第一団地敷地に、多世代交流拠点施設を整備する計画を進めています。

富秋中学校区等まちづくり検討会議*では、当拠点施設の計画にみなさんの意見を反映していくため、和泉市と協力して、多世代交流拠点施設について考える「富まちミーティング**【多世代交流拠点施設編③】」を開催します。第3回は施設のレイアウト案を示し、具体的な使い方イメージや管理・運営について検討します。ぜひご参加ください。

*「富秋中学校区等まちづくり検討会議」とは、「まちづくり構想（地域案）」の実現をはじめ、将来にわたって住み続けたい魅力あるまちづくりを推進するために、地域の住民の方などにより設立された組織です。

**「富まちミーティング」とは、構想実現に向けて、皆さんと情報共有や意見交換を行う場です。

日時・場所

9月20日（月）10時～

ゆう・ゆうプラザ（人権文化センター）

1F 大会議室（伯太町六丁目1番20号）



参加できる方・申込方法

参加資格：和泉市内在住又は在勤(学)の方

申込：不要

※ただし先着30名程度（感染症対策）

第3回のテーマ・内容

多世代交流拠点施設のレイアウト案を示し、具体的な使い方イメージや施設のルールについて話し合います。

「和泉市富秋中学校区等まちづくり構想」は、このQRコードを読み取りダウンロードすればご覧いただけます。



富まちミーティング【多世代交流拠点施設編②】では22名の方が参加され、

- ①どのように利用したいか、どんな活動をしたいか
 - ②自然な助けあいや、色々な世代が混じり合うためにはどうすればよいか
- の2つをテーマに、参加者のみなさんとさまざまなことを話し合いました！

どのように利用したいか、どんな活動したいか

1. 施設全体で目指す方向に関する意見・アイデア

- ・隣保館としての理念・運営は前提（「多世代交流拠点」の名前はこれでよいか？）
- ・子どもたちがにぎやかでもいいところ ・どこでも子どもが遊べるように（全天候型）
- ・それぞれの世代の居場所に（たまり場・拠点） ・障がいのある方も気軽に訪れるところ
- ・ふらっと立ち寄れる、みんながあつまってくる場所
- ・なんでも相談できる場 ・悩みごとや情報を世代間で共有できる場
- ・語り部やボランティアの常駐する場 ・何かあったときに夜でも対応できる安心・見守り体制

2. 利用・活動内容に関する意見・アイデア

① 日常的・定期的に行う活動（屋内中心）

<集まる・話す>

- ・会議・集会 ・昼食時などに利用

<くつろぐ>

- ・屋上で子どもが遊べて、親も食べながらくつろげる所
- ・フリーカフェ、持ち寄り飲み会

<学び・交流・助け合い>

- ・各種講座 →誰でも飛び入り参加 ・悩み相談
- ・自由に勉強 ・テスト前勉強（高学年が勉強教える） ・サークル活動
- ・盆踊りやダンス、音楽の練習 ・地域の歴史を学べる展示
- ・まちライブラリー ・識字学級 ・読書活動、幼児の集い、高齢者の読書 →気軽に交流
- ・若者・高齢者お互いの学び合いの場作り（スマホ、昔遊び）
- ・子どもたちのための学習教室 ・ママさん同士の交流
- ・未就園児の日常の集い（床がマットなど）
- ・ガラス細工づくり（ガラス用バーナーの常設）
- ・まちの先生（特技や資格を持つ人を紹介し、相談に乗ってもらえる活動）
- ・コミュニティカフェ&いきいきサロン&駄菓子+相談事業 →あらゆる世代が来られて、気軽に悩みごとが話せる

<運動・遊び・娯楽>

- ・雨天の日のラジオ体操スペース ・カードゲーム ・映画鑑賞

<IT活用>

- ・ネット会議、ネット講座 ・パソコン教室 ・AR投影
- ・コワーキングスペース（仕事をできる場）

② 日常的・定期的に行う活動（屋外中心または自由に）

- ・出前保育（こども園が協働）
- ・プレーパーク、土・水遊び ・火遊び、火育・焚火やロケットストーブ等（防災教育）
- ・グラウンドゴルフ ・大声を出したり歌ったり
- ・DIYアドバイス（道具の貸出と使い方）
- ・バスケット（ゴール）・スケート（ボード） ・野球（場）

⇒裏面へつづく



新型コロナウイルス感染症の感染が続く中ではありますが、市有施設の利用規定等を遵守するとともに、手指のアルコール消毒、マスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保などの感染症防止対策を徹底した上で、開催する予定としています。

問合せ・連絡先 和泉市人権文化センター（総務部人権・男女参画室）
【メール】 jinbun-c@city.osaka-izumi.lg.jp 【電話】 0725-44-0030



③予約などして行う活動（屋外中心）

- ・広場の貸出し利用サービス
- ・バーベキューや花火（予約して利用）

④イベント的な活動

<飲食や販売（学び・交流・助け合い）>

- ・こども食堂 ・朝市（地元新鮮野菜） ・フリーマーケット・バザーなど
- ・子ども商店街 ・夜店
- ・チャレンジショップ的なマルシェ（衣服・雑貨・食べ物などが作り・買える）
- ・期間限定の販売所（復興支援商品、地場産品など）

<音楽・芸能の発表の場>

- ・中高生などのライブ・コンサートなどの発表の場
- ・盆踊りの発表会 ・劇づくり・劇の発表会など発表の場

<運動・遊び・娯楽>

- ・スポーツ大会（子どもから高齢者まで） ・スポーツ観戦できる場（五輪・W杯など）
- ・「謎解き」ゲーム（子どもから高齢者までいないと解けない）
- ・eスポーツ大会 ・テーブルトークRPG ・宝探しゲームや迷路などの遊び
- ・大人も楽しめる鬼ごっこ
- ・基地づくり（子どもの集団活動・リーダー力）

<防災・地域活動>

- ・防災訓練（宿泊体験もできる）

○その他

- ・地域のなかをバスが巡回（子どもや高齢者を送迎）
- ・町会・自治会の活動のアピール

3. 必要な設備などに関する意見・アイデア

- ・フリーWi-fi（ネット環境）
- ・貸しかまど、キャンプ設備 ・テント等を固定できる地面の設備
- ・防音室 ・鏡など姿が写る壁
- ・ビオトープ等
- ・野球場、バスケットコート、スケートボードコート
- ・ものづくりの道具 ・無料マッサージ機

全体のまとめ

各班で出た意見のまとめとして、多世代交流拠点施設で自然な助けあいや、色々な世代が混じり合うためのポイントは、次のような内容であることを共有しました。

○助け合いや様々な世代が混じり合うためのきっかけをつくるのが大事。

- ・様々な居場所があり、様々な活動が同時に行われ、目的がある人が集まりやすい
- ・入りやすく長居したくなる気持ちよさがあり、来る目的がない人や1人の人でもだれでも来やすい ⇒オモロい人や相談できる人がいて自然に出会う

○場所をつくるだけでなく、場所を生かすためのしくみも大事。

- ・人同士のつながりや信頼関係を生まれやすくする活動
- ・みんなが施設を利用しやすくなる管理ルール ・使い方を考えられる体制 等

自然な助けあいや、色々な世代が混じり合うためにはどうすればよいか

<助け合いや自然な出会い・交流がうまれるきっかけをつくる>

- 井戸端会議ができる場づくり
 - ・役割や責任感のない、気軽な会話 ・昔の井戸端のように集まって一緒に作業する場
 - ・まちライブラリーや飲み物を持参するフリーカフェなど、自然に立ち寄り、若者も参加しやすく、仲良くなれる場
- 気軽に相談したり、お節介を焼くような人がいること
 - ・「変だけど面白い人」がいつでもいて、話を聞いてくれる ・語り部やボランティアのサポーターのような存在
- 人が来る空間があること（目的は色々） + そこですべての何かの活動が行われていること
 - ・活動空間は目に留まりやすく（位置など） ・活動運営は、事業化して継続（例：プレーパークを委託事業）
- 活動をオープンにする
 - ・保存会の踊りや三味線は、地区を超えた大人と子どもが交流するきっかけ
 - ・閉鎖的な会議室ではなく、共用部や屋外などのオープンなスペースで活動
- 多世代が交流するための仕掛けやテーマ設定（例：盆踊り）
 - ・盆踊りの準備で利用するなど日常使いの場所に。また若い世代への文化継承のきっかけに
- イベントへの参加を通じ、まずは顔見知りづくりから
 - ・気軽に来られるイベントの開催（例：音楽やスポーツ）から、徐々に交流が生まれ、助け合いへ

<多様な人が来たくするための工夫>

- みんなが行きたくなる動機となる活動をつくる
 - ・百円均一市などのみんなが来そうなことをやる
 - ・アンケートの回収箱を設置。誰もが意見を言いやすくなる環境をつくる
 - ・駄菓子屋のように子どもが行きたくなるような場所をつくる
- 中高生が普段から集まりやすくなるように
 - ・SNSで情報発信 ・スケボーやMTBの練習場があれば集まる ・屋上・広場を有効活用
- 多様な人が利用できるための配慮
 - ・自由に出入りできる ・大会イベントの開催
 - ・地域に精通した生活相談員の配置 ・包摂（子育て世帯や障がい者）の雰囲気づくり
 - ・UDフォント・やさしい日本語
- プロの技を通じた教え合い・交流の機会づくり
 - ・料理人や料理の得意な方から、美味しい料理を教えてください
 - ・元職人さんに、溶接やドライバーなど道具の使い方を教えてください
- 家族みんなで参加できるイベントなどの開催
 - ・謎解きやビブリオバトル、テーブルトークRPGなど、世代を問わず楽しめるイベント

<使い方のルール>

- 貸室利用の柔軟な運用による利用促進
 - ・普段利用しない方にも使ってもらいやすい利用受付等の工夫 ・どんな室・利用できるかの情報発信
 - ・子ども達だけでも借りられる部屋があるとよい（オープンスペース以外に）
- 貸室の利用を申請せずとも、居心地よく長居できる空間づくり
 - ・施設館内での飲食可能スペースの設置・運用ルール

<情報発信>

- この施設でできること（できないこと）が何か、細分化して知らせること
 - ・できることを話し合う場も必要（ルールづくり） ・施設運営を地域側で取り仕切る団体も必要（指定管理等）
- ICTやネットを活用した情報の共有
 - ・どんな人が来ているかQRコード等での自己紹介 ・ネット上での困りごと掲示板

第3回では、ここまでの意見交換の内容とプロジェクト委員会での検討内容もふまえて、施設のレイアウト案を示し、具体的な使い方イメージや施設のルールについて検討します。ぜひご参加ください。